

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

## 研究進捗状況報告書の概要

### 1 研究プロジェクト

学校法人名	二松学舎	大学名	二松学舎大学
研究プロジェクト名	近代日本の「知」の形成と漢学		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

### 2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日本の近代化が進行した 19 世紀～20 世紀前半、「漢学」(漢文による学び)が学術と教学に解体・再編される過程において、「漢文」による研究と教育を通して、近代日本がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間や社会秩序を形成したかを検証する。更に、東アジアなどの国外研究者と連携しつつ、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探り、新たな日本学の発展に寄与することに、本研究プロジェクトの研究目的と意義がある。

①学術・教学・近代文学・東アジアの 4 研究班体制で研究を推進する。また、日本漢学に関連する研究者に呼びかけて、国際ワークショップ・国際シンポジウムを国内外で開催する(国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進)。

②国内外の学会への参加やシンポジウム等の開催を積極的に進める。また、漢学者関連資料の収集・整理・調査を進め、画像データベース等を構築し、併せて図書として刊行し、広く成果を公開する(日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備)。

③若手研究者を研究員等として任用し、当該分野の専門知識を有する研究者として養成する。また、海外の日本学研究者向けの日本漢学セミナーを毎年度開催し、海外の日本学研究者に対する日本漢学の知識の向上をはかる(日本漢学分野の研究者養成)。

### 3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

①平成 27 年度、倉敷市において国際シンポジウムを開催し、併せて倉敷市・二松学舎大学間の包括協定を締結した。以来、現地での資料調査や成果発表の機会が格段に増加し、研究内容も確実に深化した。また、渋沢栄一記念財団や浙江大学等関係機関との共同研究が軌道に乗り、成果の一部を図書として刊行した。さらに、平成 29 年度、全国各地に点在する関係機関に呼びかけて「漢学者記念館会議」を企画・開催した。

②国内外でワークショップ・シンポジウム等を活発に開催し、本学の取組の認知度が確実に向上した結果、国内外の学会からの招聘数が増加した。また、寄贈・寄託資料の整理、研究を行い、データベースとして公開する準備を進めるとともに、資料展示を行って図録を刊行するなど、成果の公開に努めた。さらに、基礎資料の整理公刊に成果をあげ、『近代日本漢学資料叢書』『近代日本漢籍影印叢書』は、関連分野の研究者から高い評価を得た。

③27～29 年度に研究助手として本プロジェクトに参画していた者 2 名が、29 年度に博士の学位を取得した(うち 1 名は新設された「博士(日本漢学)」の学位)。また、海外の日本学研究者向けの日本漢学セミナーを中国(浙江省)や欧州で適時開催した結果、こうした機会を通して本学に留学する日本漢学を専攻する大学院生が本プロジェクト着手後に確実に増加した。



法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

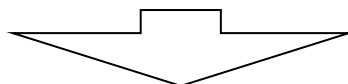
山口 直孝	文学部・教授	文学者の教養形成における漢学の受容—夏目漱石を中心として	近代文学研究班
江藤 茂博	文学部・教授	高等教育における文学概念の変容—教科書を中心に	近代文学研究班
町 泉寿郎	文学部・教授	漢蘭折衷医学にみる漢学・洋学の研究	近代文学研究班
【学外】			
合山 林太郎	慶應義塾大学・准教授	19世紀日本漢学者文集の研究	学術研究班(漢学者)
パラモア・キリ	ライデン大学・講師	キリスト教・儒教と教学に関する研究	教学研究班
徐 興慶	中国文化大学・教授	近代日台関係と漢学	東アジア研究班
朴 暎美	檀国大学校漢文教育研究所・常任研究員	近代日韓関係と漢学	東アジア研究班
王 宝平	浙江工商大学・教授	近代日中関係と漢学	東アジア研究班
劉 岳兵	南開大学・教授	近代日中関係と漢学	東アジア研究班
上地 宏一	大東文化大学准教授	各種データベースの構築	データベースの公開

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
明治期漢文教科書の研究	名古屋大学・教授	加藤 国安	教学研究班

(変更の時期:平成27年4月1日)



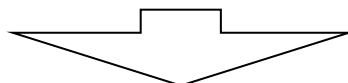
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
名古屋大学・教授	二松學舎大学東アジア学術総合研究所・特命教授	加藤 国安	教学研究班

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
19世紀日本漢学者文集の研究	二松學舎大学東アジア学術総合研究所・特命教授	大島 晃	学術研究班(漢学者)

(変更の時期:平成27年12月24日)



新

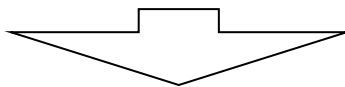
変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
大阪大学大学院・准教授	慶應義塾大学・准教授	合山 林太郎	学術研究班(漢学者)

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日台関係と漢学	台湾大学・教授	徐 興慶	東アジア研究班

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

(変更の時期:平成 29 年 10 月 12 日)



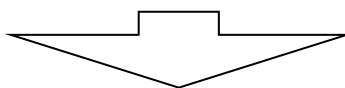
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
台湾大学・教授	中国文化大学・教授	徐 興慶	東アジア研究班

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
近代日韓関係と漢学	成均館大学校・研究教授	朴 暎美	東アジア研究班

(変更の時期:平成 29 年 10 月 12 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
成均館大学校・研究教授	檀国大学校漢文教育研究所・ 常任研究員	朴 暎美	東アジア研究班

## 11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

## (1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

日本の近代化が進行した 19 世紀～20 世紀前半、「漢学」(漢文による学び)が学術と教学に解体・再編される過程において、「漢文」による研究と教育を通して、近代日本がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間や社会秩序を形成したかを検証する。更に、東アジアなどの国外研究者と連携しつつ、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探り、新たな日本学の発展に寄与することに、本研究プロジェクトの研究目的と意義がある。

目的を達成するために 3 本の柱を立てて活動する。

- ①国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進
- ②日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備
- ③日本漢学分野の研究者養成

①学術研究班・教学研究班・近代文学研究班・東アジア研究班の 4 班体制で研究を推進する。また、日本漢学に関連する研究者に呼びかけて、国際ワークショップ・国際シンポジウムを国内外で開催する。

②国際学会・国内学会への参加やワークショップ・シンポジウム・講演会の開催を積極的に進める。また、江戸後期～明治期の儒者・漢学者の関連資料の収集・整理・調査を進め、画像データベース、人物情報データベースを構築、公開する。併せて『近代日本漢学資料叢書』・『近代日本漢籍影印叢書』や『講座 近代日本と漢学』等の図書を順次刊行する。

③公募により学内学の若手研究者を研究員・研究助手・研究支援者として任用し、論文作成・研究発表の機会を充実させ、当該分野の専門知識を有する研究者の養成をはかる。また、海外の日本学研究者向けの日本漢学セミナーを毎年度開催し、海外の日本学研究者に対する日本漢学の知識の向上に資するとともに、本学への日本漢学を専攻する留学生の募集に努め、本学における日本漢学研究の拠点形成をはかる。

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

## (2) 研究組織

「漢学」が学術と教学に解体・再編された過程を、経時的、多角的に考察することにより、「漢学」から日本近代化の特色や問題点を探る。互いに関連する「近代学術と漢学」、「近代教学と漢学」、「近代文学と漢学」、「東アジアの近代化と漢学」の視点から研究を進めるために、学術研究班(8名)・教学研究班(6名)・近代文学研究班(4名)・東アジア研究班(4名)の4研究班を組織し、各研究者が研究班に所属して研究を推進する。各班に主任を置き、研究の進捗状況を把握する。

担当者会議を設置し、事業推進に関する事項を審議、承認し、研究に関する情報、成果を共有する。研究代表者が担当者会議を招集するとともに、プロジェクト全体を統括する。

研究員1名、研究助手4~5名、研究支援者2名を採用し、各班の研究推進に参画させる。

事務職員3名(本学2名、派遣職員1名)を配置し、事務局として事務処理を支援する。

渋沢栄一記念財団・浙江工商大学・リール市図書館等と連携し、共同研究を推進する。また、全国の漢学者記念館の代表者を招集し、年1回、漢学者記念館会議を開催する。

## (3) 研究施設・設備等

## 【研究施設】

東アジア学術総合研究所(119 m<sup>2</sup>) 20名

## (4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び\*を付すこと。

## &lt;現在までの進捗状況及び達成度&gt;

1: 岡山地域の漢学・漢学者に関する研究活動としては、平成27年度に倉敷市において国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」\*1を開催し、併せて倉敷市と二松學舎大学の間に包括協定を締結した。以来、現地での資料調査や成果発表の機会が格段に増加し、\*2また研究内容も確実に深化した。実業家と漢学(野崎武吉郎・白岩龍平・田辺為三郎ら)、キリスト教と陽明学(山田準、留岡幸助ら)、自由民権運動と漢学(西毅一・小松原英太郎・安達憲忠)など、さまざまな問題が具体的に明らかになり、地元との連携が着実に実りつつある。町泉寿郎・牧角悦子・田中正樹を中心に研究成果を挙げている。

学祖三島中洲の研究と関連して、三島中洲と親交のあった渋沢栄一の研究グループ(渋沢栄一記念財団)との共同研究が軌道に乗り\*3、町泉寿郎が渋沢栄一を切り口に近代漢学の諸問題を取り扱った研究成果を刊行した。\*4

また、関係機関の横の連携をはかるべく、全国各地に点在する各機関に呼びかけて平成29年度より新たに「漢学者記念館会議」\*5を企画実施した。

国際的共同研究については、中国・浙江大学との筆談録に関する研究\*6やフランス・リールにおける資料調査と19世紀の欧州東洋学と東アジアの学術との比較研究\*7があり、基礎的な研究に成果を挙げつつある。

2: 情報発信については、国内外においてワークショップ・シンポジウム・講演会を活発に開催してきた。\*8こうした活動を通して「近代日本漢学」に関する本学の取り組みの認知度が近年確実に向上してきたことは、国内外の学会からの招聘などの増加に如実に現れている。

研究基盤となる資料収集の進捗にも特筆すべきものがある。購入資料(まとまったものとしては加藤復斎関係資料・紀伝道桑原家資料・孝経コレクション・千字文コレクションなど)の他に、寄贈資料として芳野金陵資料、大沼枕山資料、加藤天淵資料、山田準資料、佐久間峻齋資料等があり、活発な資料整理と研究を行うとともに\*9、補修・資料撮影を行い画像データベースの公開準備を進めた\*10。また整理作業の進捗した資料に関しては、資料展示を行うとともに、その図録を刊行した\*11。

研究成果の公開としては、研究基盤となる基礎資料の整理公刊に成果をあげている。従来ほとんど研究がないものの近代漢学の起点として重要な寛政異学禁の時期の儒者平賀

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

中南に関する研究成果を野間文史と稲田篤信がまとめた『近代日本漢学資料叢書 1』\*12・『近代日本漢籍影印叢書 1』\*13 は、関連分野の研究者から高い評価を得ている。町泉寿郎は日本漢文学研究の先駆者柿村重松の遺稿を『近代日本漢学資料叢書 2』として整理公刊した\*14。また加藤國安は漢文教科書資料集\*15 と正岡子規の祖父大原観山に関する基礎研究をまとめた。\*16 王宝平は龐大な明治期筆談資料に関して基礎資料を整理公刊した。

\*17

3: 人材育成に関しては、27年度、28年度、29年度に採用した研究員は、それぞれその後、研究職のポストを得て国内外で研究活動に従事している。

研究支援者・研究助手による研究成果も格段に増加している。特に 27・28・29 年度に研究助手としてプログラムに参画していた者 2 名が、29 年度に博士の学位(うち 1 名は 29 年度に新設された学位「博士(日本漢学)」)を取得\*18 したことは、特筆すべき成果である。

海外の日本学研究者向けの日本漢学セミナーとしては、毎年 8 月に浙江省で開催している日本語教員向けのもの\*19 や、その他、欧州や中国で適時開催しているものがあり、こうした機会を通して本学に留学する日本漢学を専攻する大学院生はプログラム着手後に確実に増加した。これは本学における日本漢学研究の拠点形成上、重要な成果である。本プロジェクトの研究交流を契機として、大学間の交流協定の締結に至った例(釜山大学校、魯東大学)\*20 や研究プロジェクト間の覚書を締結した例があり(成均館大学校)\*21、本プロジェクトは大学全体の教育研究の国際化に確実に寄与している。

#### <特に優れた研究成果>

プロジェクト全体として強調したい点は、本プロジェクトが進めてきた「(近代)日本漢学研究」が同じく「日本漢文」を主たる対象としつつも、「和漢比較文学」等の従来の研究とは目的・方法・内容が異なっていることである。これは新しい学際的な学術分野の開拓であり、その点が関連領域の研究者の関心を惹き、フランス各地での研究会の実施や、台湾・中央研究院や香港城市大学などの国外の研究機関とのワークショップ共催等が射程に入っている。

個別の研究成果としては、川邊雄大『浄土真宗と近代日本—東アジア・布教・漢学』(2016、勉誠出版、科研費助成研究成果)\*22、加藤國安『『子規全集』未収録・自筆漢詩抜萃写本『随録詩集』等翻刻・解題』(2016、科研費報告書)\*23 や、日本の「春秋」研究の端緒となった平賀中南を論じた野間文史解題「平賀中南『春秋集箋』」(2017)\*13 があり、町泉寿郎「幕末明治における学術・教学の形成と漢学」(2016)\*24 や町泉寿郎解題『柿村重松『松南雜草』』(2017)\*14 も他の論文に引用されている。

#### <問題点とその克服方法>

人文学全体の危機的な状況が続くなか、プロジェクト関係者の努力にもかかわらず、「日本漢学」のポスト自体の増加には至っていないため、若手研究者をとりまく環境はなお厳しいものがある。本プロジェクトでは古典学の蓄積などを重視しつつも従来の人文学の枠組にのみ捉われることなく、他領域との学際的な研究や諸外国との国際的な研究を推進し「日本漢学」をより開かれたものに刷新していくことを通して、「日本漢学」関連の研究者人口の拡大とポストの増加につながるよう努めていきたい。

#### <研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)>

本プロジェクト開始以降、近代日本漢学に関する資料の整理が進捗し、資料展示や展示図録による成果の公開が進むにつれ、外部からの資料の寄贈・寄託が増加した。新規の寄贈・寄託資料が新しい調査研究を促し、研究基盤形成の上でよい循環が生まれている。

また、プロジェクト開始以前から年次刊行している学術雑誌『日本漢文学研究』掲載の主

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

要論文が韓国語に翻訳されて成均館大学校から刊行された。このことも本学の日本漢文学研究の拠点としての役割が対外的に認知されてきたことを示すものである。

#### <今後の研究方針>

近 200 年における日本漢学の教育・研究・対外関係等にわたる概要とその意義については、これまでの多角的な調査・研究活動を通して、かなり明らかになりつつある。今後は、これまでシンポジウム・ワークショップ・講演会・研究会その他の様々な機会を通して蓄積した学内外の研究成果を論文集・報告書等にまとめて、その成果をより確かなものにしていきたい。また、新たに戦前期の内地・外地における漢文教科書に関する研究にも着手したので、研究期間内に研究方向を見出し、次の研究につなげたい。

#### <今後期待される研究成果>

本プロジェクトが計画実施している多様な事例研究の蓄積を通して、日本近代の「漢学」がどのような「知」を形成し、それによってどのような人間や社会秩序を形成したかを明らかにすることは、単に過去を検証することにとどまらず、情報化・グローバル化の進行にともなう問題点が顕在化し東アジア地域の歴史や文化伝統を踏まえたグローバルな思考がますます重要になっている現在の課題に直結するものである。本プロジェクトを通して「漢学」が現在の根本的な問いに対して有効であることを明示できるような研究成果をあげていきたい。

#### <自己評価の実施結果及び対応状況>

進捗状況については、研究代表者が全学政策会議、大学運営会議等、学内の上位会議体で定期的に報告を行うとともに、進捗管理表によって管理し、毎年度末に全体計画および個別計画について達成度を算出して評価している。

平成 27 年度全体計画達成度 94%

平成 28 年度全体計画達成度 97%

平成 29 年度全体計画達成度 97%

おおむね順調に進捗している。

#### <外部（第三者）評価の実施結果及び対応状況>

本プロジェクト着手時の規程に定めた外部評価のための有識者 3 名を選定して外部評価委員会を組織し、3 年終了時までの成果を取りまとめた「中間報告書」等の資料をもとに外部評価を実施した。3 名の評価委員からは、具体的な意見が寄せられた（別紙資料参照）。評価意見は、本プロジェクトが掲げる「日本漢学」研究の問題意識や独創性を高く評価し、シンポジウム・刊行物・資料展示などを通じた成果公開に対しても好意的な評価が与えられた。但し、実業（政治家や企業家）と漢学との関係についてより広範な研究を求める意見や、西洋語習得・西洋的学知吸収など近代化の基盤となった「漢学」の役割を一層喧伝すべきであるとの意見、またさまざまな媒体を通じた情報発信を行い更に認知度を高める工夫を求める意見が寄せられた。企業家と漢学に関しては既にその研究に着手しているが、政治家との関係も含めて実業と漢学に関する研究活動の充実をはかりたい。西洋語習得・西洋的学知吸収と「漢学」との関係についても既に着手している蘭学者・医者などの事例研究の一層の充実をはかりたい。またホームページのコンテンツを増やして日本漢学資料へのアクセスを容易にすること等を通して、最終年度に向けて研究成果の集約と認知度の向上につなげたい。

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 近代漢学 (2) 明治漢詩 (3) 東洋学  
 (4) 中国古典学 (5) 漢文教育 (6) 儒教  
 (7) 日中交流史 (8) 夏目漱石

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付すこと。

<雑誌論文>

1. 町泉寿郎「幕末明治における学術・教学の形成と漢学」『日本漢文学研究』第 11 号 二松學舎大学日本漢文教育研究推進室 2016.3 133-154 頁 \*24
2. 江藤茂博「芥川龍之介『羅生門』『鼻』『芋粥』—語り手の位置と小説の方法」『二松』第 30 集 二松學舎大学大学院 2016.3 3-19 頁
3. 牧角悦子「中国文学史における近代 —古典再評価の意味と限界」『第 6 回日中学者中国古代史論壇論文集 —中国史の時代区分の現在—』中国社会科学院歴史研究所・東方学会 2015.8 285-293 頁
4. 牧角悦子「「文」到「文学」的展開——古代變質的標誌——(中文)」中国社会科学院歴史研究所・首都師範大学歴史学院編『第七屆中日学者古代史論壇——中国古代的科学技术與社会·從文学、歷史和科技角度展開的中国古代史研究会議論文集』 2015.9 277-284 頁
5. 牧角悦子「賈誼の賦をめぐって」『日本中国学会報』第 67 集 日本中国学会 2015.10 31-45 頁
6. 牧角悦子『『文選』編纂に見る「文」意識』『二松学舎大学人文論叢』第 95 輯 二松学舎大学人文学会 2015.10 65-87 頁
7. 牧角悦子「文から文学への展開」『二松』第 30 集 二松學舎大学大学院紀要 2016.3 51-68 頁
8. 牧角悦子「魯迅と小説 —「速朽の文章」という逆説」『神話と詩 日本聞一多学会報』第 14 号 日本聞一多学会事務局 2016.3 1-32 頁
9. 山口直孝「知識人の責務—大西巨人短編集『五里霧』の空所」『社会文学』第 42 号 日本社会文学会 2015.8 70-81 頁
10. 野間文史「《春秋左氏傳》其構成與基軸」林慶彰主編『中日韓經學國際學術研討會論文集』台湾萬卷樓圖書公司 2015.4
11. 野間文史「自述《春秋正義校勘記》之撰作」劉玉才・水上雅晴主編『經典與校勘論叢』北京大学出版社 2015.4
12. 野間文史「春秋正義校勘記を作成して」『二松』第 30 集 二松學舎大学大学院紀要 2016.3 69-92 頁
13. 野間文史「訳注 周易正義訓讀 —同人卦・大有卦—」『東洋古典學研究』第 39 集 廣島大學東洋古典學研究會 2015.5 73-90 頁
14. 野間文史「訳注 周易正義訓讀 —謙卦・豫卦—」『東洋古典學研究』第 40 集 廣島大學東洋古典學研究會 2015.10 21-38 頁
15. 小方伴子「秦鼎『国語定本』に於ける清朝校勘学の成果の導入とその限界—顧千里『国語礼記』の利用を中心に—」『人文論叢』第 95 輯 二松學舎大学人文学会 2015.10 126-153 頁
16. 町泉寿郎「漢蘭折衷の医学」『杏雨』19 号 武田科学振興財団 2016.4 27-53 頁



法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

17. 町泉寿郎「江戸後期の福山藩と交渉医学」『日本医史学雑誌』62 巻 2 号 日本医史学会 2016.6 119-120 頁
18. 町泉寿郎,上地宏一「『日本漢文文献画像データベース(仮)』の構築について」第 22 回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」発表論文集 2017.2 \*10
19. 江藤茂博「芥川龍之介「妙な話」論(大野淳一教授記念号)」『武蔵大学人文学会雑誌』第 48 巻第 2 号 武蔵大学人文学会 2017.3 31-46 頁
20. 江藤茂博「魯迅『藤野先生』—「幻燈」と「写真」」『二松』第 31 集 二松學舎大学大学院 2017.3 125, 127-136 頁
21. 高山節也「佐賀県立図書館蔵蓮池文庫蔵書目録の基礎的考察」『国学院雑誌』117 巻 11 号 国学院大学 2016.11 435-456 頁
22. 牧角悦子「文学史という方法論」『第 8 回日中学者中国古代史論壇論文集』中国社会科学院歴史研究所・東方学会 2016.5
23. 牧角悦子「聞一多における詩と学術—詩と神話の親和性—」『神話と詩 日本聞一多学会報』第 15 号 日本聞一多学会事務局 2017.3 1-13 頁
24. 稲田篤信「樊噲」考—絵詞として読む『春雨物語』『国文論叢』第 51 号 神戸大学 2016.9
25. 稲田篤信「和刻本《世説新語補》の三種手批本」『域外漢籍研究集刊』第 14 輯 中華書局 2016.11
26. 野間文史「周易正義訓讀 —隨卦・蠱卦—」『東洋古典學研究』第 41 集 廣島大學東洋古典學研究会 2016.5 97-113 頁
27. 野間文史「周易正義訓讀 —臨卦・觀卦—」『東洋古典學研究』第 42 集 廣島大學東洋古典學研究会 2016.10 25-39 頁
28. 野間文史「平賀中南『春秋稽古』初探」『二松』第 31 集 二松學舎大学大学院紀要 2017.3 5-26 頁 \*13
29. 小方伴子「関脩齡『国語略説』に於ける『国語』道春点改訓の試みとその講述表現」『日本漢文学研究』第 12 号二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 1-25 頁 2017.3
30. 朴暎美「‘完生’:近代における日本漢学者の老年に関する認識—三島中洲を中心として」『漢文学論集』44 榎域漢文学会 2016.6
31. 朴暎美「日帝強占期における經学研究の一面 —經学院雑誌を中心として」『漢文学論集』46 榎域漢文学会 2017.2
32. 王宝平「『失われた 20 年』における中国の日本語教育と日本研究」『失われた 20 年と日本研究のこれから・失われた 20 年と日本社会の変容』国際日本文化研究センター 2017.3
33. 王宝平「由日本対清交渉看晚清外交二重性—以 1895 年「天津条約」事前交渉為中心」『浙江外国語学院学報』 2016.5
34. 劉岳兵「魏源的『聖武記』在近代日本」閻純徳主編『漢学研究』第 20 集 学苑出版社 2016.5
35. 劉岳兵「近代日本思想家西晋一郎的中国儒学論」『歴史教学』2016 年第 14 期 歴史教学社(天津) 2016.7
36. 劉岳兵「船山史論与近代日本知識建構」『深圳大学学报』2017 年第 1 期 2017.1
37. 劉岳兵「津田左右吉的論著及學術思想在中国的影響—以民国時期為中心」『文献』2017 年第 2 期 2017.3
38. 合山林太郎「近世期日本における袁中郎の受容とテキストの問題:山本北山一派の動向を中心に」『雅俗』15 号 九州大学 2016.7 13-23 頁

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

39. 町泉寿郎「18 世紀瀬戸内地域の医学に関する小考 —讃岐尾池家・備中赤木家の資料を中心に」『香川短期大学紀要』第 45 号 香川短期大学 2017.6 15-28 頁
40. 町泉寿郎「芳野金陵およびその門人知友と清国公使館員の新出の筆談録」『二松學舎創立百四十周年記念論文集』学校法人二松學舎 2017.10 251-288 頁 \*9
41. 町泉寿郎「資料紹介 翻印『昌平学分類雑載』—其一—」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室頁 2018.3 133-180 頁
42. 町泉寿郎「資料紹介 白岩龍平書簡(野崎萬三郎・野崎武吉郎宛)の紹介」『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第 48 集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2018.3 59-120 頁 \*2
43. 町泉寿郎「小笠原島開拓被とその撰文者片山猶存」『人文論叢』100 輯 二松学舎大学人文学会 2018.3 116-154 頁
44. 田中正樹「三島中洲の学術 —『尚書私録』と『大學』—」『陽明学』第 28 号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所陽明学研究室 2018.3 85-110 頁
45. 牧角悦子「文学史という方法論」第 8 回日中学者古代史論壇論文集『中国史学の方法論』汲古書院 2017.5
46. 牧角悦子「聞一多『周易類纂』について」『神話と詩』第 16 号 日本聞一多学会事務局 2018.3 3-14 頁
47. 牧角悦子「文概念の成立における班固の位置——六朝文論の原点として」『六朝学術学会報』第 19 集 六朝学術学会 2018.3 1-17 頁
48. 牧角悦子「花は「咲く」のか「笑う」のか—日中文化交流の一側面—」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2018.3 31-61 頁
49. 牧角悦子「講演記録 古典とその「解釈」—『詩経』を例として—」『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第 48 集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2018.3 41-57 頁
50. 牧角悦子「建安の樂府と詩——『文選』卷二十九「雜詩」を中心に」『人文論叢』第 100 輯 二松学舎大学人文学会 2018.3 76-96 頁
51. 山口直孝「〈白樺派〉という安全装置 —民主主義文学者たちが否認したもの」『有島武郎研究』第 20 号 有島武郎研究会事務局 2017.5 39-50 頁
52. 野間文史「周易正義訓讀 —噬嗑卦・賁卦—」『東洋古典學研究』第 43 集 廣島大學東洋古典學研究會 2017.5 33-50 頁
53. 野間文史「平賀中南『春秋稽古』所引日本人学者の説について」『二松學舎創立百四十周年記念論文集』学校法人二松學舎 2017.10 221-249 頁 \*13
54. 小方伴子「関脩齡『国語略説』の音注とその依拠資料」『人文論叢』第 100 輯 二松学舎大学人文学会 2018.3 97-115 頁
55. 加藤国安「幕末の一儒の載道精神—伊豫松山藩儒・大原観山旧蔵書考」『日本中国学会報』第 69 集 2017.10 \*16
56. 朴暎美「日本殖民地期朝鮮における經学研究—様相」『漢文学論集』46 槿域漢文学会 2017
57. 劉岳兵「近代日本の漢籍翻訳及其意義—以田岡嶺雲的“和訳漢文叢書”為中心」『南開学報』2017 年第 4 期 2017.8
58. 劉岳兵「清末維新派的明治維新論及其对日本研究的啓示」『日本問題研究』2017 年第 4 期 2017.8

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

### 研究員

平成 28 年度研究員

59. 山口智弘「徳川中期における古典解釈学と思想 —伊藤仁斎と荻生徂徠」『東京大学』2016.4 1-347 頁

60. 山口智弘「安井息軒の経世論 —かの思想の素描として」『日本漢文学研究』第 12 号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.3 51-77 頁

平成 29 年度研究員

61. 商兆琦「「近代性」についての一試論」『思想史研究』第 23 号 日本思想史・思想論研究会 2017.5 153-162 頁

62. 商兆琦「翻訳 徐興慶著『大日本史』の史観と「水戸学」の再構築」『日本漢文学研究』第 13 号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2018.3 1-30 頁

63. 商兆琦「対談抄録 〈対談〉日本の近代をつくった東洋のロゴス」『季刊日本主義』第 39 号 白陽社 2017.9 30-43 頁

### 研究支援者

64. 川邊雄大「国士館大学体育学部における中国語教育の現状と課題」『国士館大学経済研紀要』第 28 号 国士館大学政経学部附属経済学研究所 2016.3 61-75 頁

65. 川邊雄大「資料紹介 明治期の琉球における真宗法難事件について」『東アジア文化交渉学会第 7 回シンポジウム 連携の「東アジア時代」への時代—文化交渉学的アプローチを軸に』(下) 東アジア文化交渉学会 2015.5 548-555 頁

66. 川邊雄大「資料紹介 白華文庫蔵・小栗栖香頂「水築小相伝」について」『二松学舎大学東アジア学術総合研究所集刊』第 46 集 二松学舎大学東アジア学術総合研究所 2016.3 109-120 頁

67. 清水信子「神内家蔵書目録(医書・古典籍之部)」『日本漢文学研究』第 11 号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2016.3 189-206 頁

68. 川邊雄大「중국과 일본의 교류와 『동영시선(東瀛詩選)』편찬에 관한 고찰 가와베 유타(韓国語)」『일본 한문학 연구 동향동아시아 자료총서』제 4 장 『성균관대학교, 동아시아 근대한문학연구반 편역 2016.8 127-160 頁

69. 川邊雄大「日本人居留民と東西本願寺」『アジア遊学』205 号 勉誠出版 2017.2 120-129 頁

70. 川邊雄大「予稿 大谷光瑞の対外政策と研究者たち—中尾万三・岡西為人を例として—」『東アジア文化交渉学会第 8 回国際シンポジウム 東アジア交渉学の新しい歩み』(下) 2016.5 919-920 頁

71. 川邊雄大「資料紹介 白華文庫蔵・平野五岳「五岳道人 古竹邨舎詩鈔」について」『日本漢文学研究』第 12 号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.3 153-176 頁

72. 川邊雄大「研究ノート 「応接筆記」・「藩庁応接記」・「廿二日対辨記」について—真宗法難事件における東本願寺と琉球藩庁の会談記録—」『国士館大学経済研紀要』第 29 号 国士館大学政経学部附属経済学研究所) 2017.3 47-85 頁

73. 川邊雄大「資料紹介 常福寺蔵・清国書籍販売目録三種について—『増補抱芳閣書目』・『醉六堂発兌書籍価目』・『湖北官書処書目』—」『日本漢文学研究』第 13 号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2018.3 181-234 頁

74. 川邊雄大「資料紹介 早稲田大学図書館蔵・平野五岳『五岳詩集』(市島春城旧蔵)について」『咸宜園教育研究センター研究紀要』第 7 号 日田市教育庁咸宜園教育研究セン

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

ター 2018.3 49-62 頁

75. 川邊雄大「資料紹介 真宗法難事件関係資料「琉球国内務省出張所往復書藩庁往復並  
応接記綴込」について」『国土館大学経済研紀要』第 30 号国土館大学政経学部附属経  
済学研究所 2018.3 47-187 頁
76. 清水信子「資料紹介 二松學舎大学 SRF 所蔵『孝経』諸本目録」『日本漢文学研究』第  
13 号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2018.3  
235-262 頁 \*9
77. 清水信子「資料紹介 二松學舎大学 SRF 所蔵加藤復齋旧蔵資料目録(稿)」『日本漢  
文学研究』第 13 号 二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室  
2018.3 263-304 頁 \*9
78. 清水信子「口頭発表抄録 赤木家の人々とその蔵書」『日本医史学雑誌』第 63 巻第 2  
号日本医史学会 2017.6

#### 研究助手

79. 武田祐樹「林羅山の『大学』解釈をめぐる—『大學諺解』と『大學和字抄』の比較検討を  
通して見た林羅山の朱子学—」『日本漢文学研究』第 11 号 二松學舎大学東アジア学  
術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2016.3 27-54 頁
80. 楊爽「近代における漢文小説の「還流」—依田学海『譚海』と『東海遺聞』の関係を中心  
に—」『神話と詩』第 14 号日本聞一多学会 2016.3 33-58 頁
81. 阿部和正「『彼岸過迄』における「好奇心」の行方—教科書としての〈新アラビア夜話〉受  
容—」『日本文学』第 65 巻第 12 号ひつじ書房 2016.12 1-12 頁
82. 加畑聡子「江戸医学館官立化時期における小坂元祐の経穴学教育」『伝統鍼灸』第 43  
巻 1 号(86 号)日本伝統鍼灸学会 2016.7
83. 平崎真右「田岡嶺雲における「同情」観:雑誌『青年文』を中心とした論理構造と言説環  
境」『日本漢文学研究』第 12 号二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育  
研究推進室 2017.3 79-104 頁
84. 楊爽「評伝から漢文小説へ—依田学海『譚海』にみる『名家略伝』の翻案方法—」『二  
松』第 31 集二松學舎大学大学院文学研究科 2017.3 29-62 頁
85. 楊爽「依田学海の『蝦夷風俗彙纂』受容 —「蝦夷三孝子二貞婦」の典拠を中心に—」  
『東アジア学術総合研究所集刊』第 47 集二松學舎大学東アジア学術総合研究所  
2017.3 69-101 頁
86. 楊爽「研究ノート 依田学海と『聊齋志異』—「小野篁」と「蓮花公主」との比較研究を中心  
に—」『日本漢文学研究』第 12 号二松學舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育  
研究推進室 2017.3 119-151 頁
87. 阿部和正「漱石漢詩と日本漢詩文を知るためのブックガイド」『漢文教室』第 203 号 大  
修館書店 2017.5 16-17 頁
88. 平崎真右「国土館とその時代:私塾、大正、活学の系譜」『国土館史研究年報 楓原』第  
9 号学校法人国土館 2018.3 75-100 頁
89. 楊爽「漢文白話体小説の書き手「秋風道人」とは誰か—依田学海の創作活動の一面—」  
『人文論叢』第 99 輯二松學舎大学人文学会 2017.10 138-151 頁

#### <図書>

1. 戸内俊介,小方伴子,野間文史,牧角悦子,田中正樹,伊藤晋太郎,武永尚子,張佩茹,高澤浩  
一,福島一浩,町泉寿郎,高山節也,家井眞『改訂新版 中国学入門—中国古典を学ぶため

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

の13章』勉誠出版 2015.4

2. 町泉寿郎,清水信子,寺内進『芳野金陵と幕末日本の儒学』二松学舎大学図書館大学資料展示室 2015.10 \*11
3. ゴープル・エドモンド・アンドリュウ,町泉寿郎,鈴木達彦,清水信子,小曾戸洋,平松賢二,天野陽介,ドロッド・エドワード,ヴィグル・マティアス,福田安典,星野卓之,鈴木達彦,下坂憲子,石上阿希,岩間眞知子,池田峯公『曲直瀬道三と近世日本医療社会』武田科学振興財団杏雨書屋 2015.10
4. 鈴木健一,深沢眞二,堀川貴司,山本啓介,宮本圭造,澤井啓一,川平敏文,西田正宏,田中潤,海野圭介,高木浩明,町泉寿郎,松永知海,門脇むつみ,柳沢昌紀,田代一葉,田中仁,阪口弘之,小林千草『形成される教養—十七世紀日本の〈知〉』勉誠出版 2015.11
5. 中島洋一,松村紀明,木下浩,梶谷真司,町泉寿郎,清水信子,鈴木則子,平崎真右,黒澤学,板野俊文,田中健二,中島洋一『備前岡山の在村医 中島家の歴史』思文閣出版 2015.11
6. 西江錦史郎,町泉寿郎,溝田直己,高山秀嗣,川邊雄大,中村聡『浄土真宗と近代日本:東アジア・布教・漢学』勉誠出版 2016.3 \*22
7. 沈伯俊,大上正美,堀池信夫,石井仁,小林春樹,牧角悦子,和久希,高橋康浩,柳川順子,渡邊義浩,大村和人,矢田博士,中川諭,仙石知子,伊藤晋太郎,長尾直茂『三国志論集:狩野直禎先生米寿記念』汲古書院 2016.9
8. 牧角悦子,伊藤晋太郎,田中正樹,植松宏之,山邊進,松本健太郎,谷島貫太,江藤茂博『東アジアにおける都市文化:都市・メディア・東アジア』明德出版社 2017.3
9. 秋成研究会(稲田篤信分担執筆)編『上田秋成研究事典』笠間書院 205-215頁 2016.1
10. 多田一臣,山崎正伸,原由来恵,小山聡子,磯水絵,五月女肇志,白井雅彦,稲田篤信,中川桂,増田裕美子,五井信,瀧田浩,荒井裕樹,谷口貢,山口直孝,松本健太郎,江藤茂博,塩田今日子,渡邊了好,森野崇,林謙太郎,改田明子『恋する人文学:知をひらく22の扉』翰林書房 2016.3
11. 加藤国安編『明治漢文教科集成第Ⅲ期』第6巻・第7巻 不二出版 2015.9 \*15
12. 加藤国安編『明治漢文教科集成 第Ⅲ期』解説・総索引 不二出版 2015.9 \*15
13. 加藤国安『子規全集』未収録・自筆漢詩抜萃写本:『随録詩集』等翻刻・解題((科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書,平成24-27年度)) 2016.3 \*23
14. 湯浅邦弘,横田恭三,中村未来,佐藤一好,宇田川幸則,浅見洋二,谷口高志,草野友子,鶴成久章,川野明正,近藤浩之,町泉寿郎,合山林太郎,陶徳民『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房 2016.3
15. 町泉寿郎,川邊雄大,武田祐樹『平成28年度二松学舎大学資料展示室企画展図録 三島中洲と近代 其四 一小特集 戦争と漢学』二松学舎大学附属図書館 2016.5 \*11
16. 木村昌人,町泉寿郎,濱野靖一郎,桐原健真,于臣,朴暎美,見城悌治,任夢溪,丁世絃著『渋沢栄一は漢学とどう関わったか:「論語と算盤」が会う東アジアの近代』(渋沢栄一と「フィランソロピー」)ミネルヴァ書房 2017.2 \*3
17. 高山節也編『佐賀県立図書館蔵蓮池鍋島藩関係書籍目録対照表』二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2016.7
18. 野間文史編『平賀中南『春秋集箋』』(近代日本漢籍影印叢書1)二松学舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」1-231頁 2017.3 \*13
19. 稲田篤信編『澤井常四郎『経学者平賀晋民先生』』(近代日本漢学資料叢書1)二松学

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」  
1-673 頁 2017.3 \*12
20. 江藤茂博,山口直孝,浜田知明『横溝正史研究 6』戎光祥出版 2017.3
  21. 加藤国安他『杜甫全訳詩注(一)』講談社学術文庫 2016.6
  22. 井上泰至,合山林太郎,鈴木彰,向後恵里子,斎藤英喜,塩谷菊美,延広真治,丹羽みさと,神林尚子,鈴木俊幸,鈴木広光,山田俊治,磯部敦,青山英正,前田雅之,山本嘉孝,古田島洋介,大東和重,熊倉千之,臼田雅之,上原麻有子『幕末明治:移行期の思想と文化』勉誠出版 2016.5
  23. 朴暎美他『日本漢文学研究動向』成均館大学校出版部 2016.8 \*21
  24. 朴暎美『東アジア学入門』成均館大学校出版部 2016.8 \*21
  25. 朴暎美他『近代転換期東アジア伝統知識人の対応と新しい思想の形成』成均館大学校出版部 2016.8 \*21
  26. 朴暎美他『潘佩珠自叙傳』成均館大学校出版部 2016.8
  27. 王宝平編『日本蔵晚清中日朝筆談資料:大河内文書』全 8 冊 浙江古籍出版社 2016.12 \*17
  28. 劉岳兵他『日本儒学思想史研究—王家驊先生紀念專輯』天津人民出版社 2016.9
  29. 井上泰至,倉員正江,金時徳,鈴木彰,川平敏文,佐伯真一,佐藤貴裕,久保誠,吉村雅美,前田雅之,勢田道生,寺尾美保,田中康二,濱野靖一郎,大島明秀,三ツ松誠,藤田大誠,樋口大祐,日置貴之,合山林太郎『近世日本の歴史叙述と対外意識』勉誠出版 2016.7
  30. 町泉寿郎編『柿村重松『松南雜草』』(近代日本漢学資料叢書 2)二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」1-276 頁 2017.10 \*14
  31. 町泉寿郎,清水信子「三島中洲と近代—其五— 二松學舎の漢学教育」二松學舎大学附属図書館 2017.11 \*11
  32. 見城悌治,桐原健真,沖田行司,姜克實,町泉寿郎,見城悌治,酒井一臣,辻直人,岡本佳子,陶徳民,山口輝臣『帰一協会の挑戦と洪沢栄一:グローバル時代の「普遍」をめざして』(洪沢栄一と「フィランソロピー」)ミネルヴァ書房 2018.2 \*3
  33. 町泉寿郎他『医家肖像集:杏雨書屋所蔵 2 編』武田科学振興財団 2018.3
  34. 町泉寿郎,川邊雄大「新収資料展 近代漢学の諸相 二松學舎大学資料展示室企画展 図録」2018.3 \*11
  35. 齋藤希史,北川扶生子,合山林太郎,牧角悦子,野網摩利子,山口直孝,阿部和正,木戸浦豊和,藤本晃嗣『漢文脈の漱石』翰林書房 2018.3 \*8
  36. 小曾戸洋,星野卓之,天野陽介,荒川緑,大津幸恵,岡井慎吾,加畑聡子,小林健二,左合昌美,高橋大希,土生エリカ,林孝信,福本佳之,宮川浩也,町泉寿郎『日本医家伝記事典—宇津木昆台『日本医譜』—』日本内経医学会・二松學舎大学私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「近代日本の「知」の形成と漢学」・北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部 解題,595-617 頁 2018.3
  37. 江藤茂博,平崎真右,楊爽,岸田芳朗,天野雅敏,木村史明,井尻昭夫,大石貴之,遠藤英樹,松本健太郎,河田学,山崎裕行,李艶萍,張元,大塚泰造,海野裕,箕輪弘嗣,大崎紘一,渡邊憲二『フードビジネスと地域:食をめぐる文化・地域・情報・流通』ナカニシヤ出版 2018.3
  38. 江藤茂博,牧角悦子,町泉寿郎,秋葉利治,Peng,Pamela Hsiaowen『論語の学校:時習編』研文社 2018.3
  39. 山寺美紀子,長谷部剛,矢羽野隆男,横山俊一郎,中谷伸生,町泉寿郎,吾妻重二,有馬卓也

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

『泊園書院と漢学・大阪・近代日本の水脈』(関西大学創立130周年記念泊園書院シンポジウム論文集)関西大学出版部 2017.8

40. 山口直孝,橋本あゆみ,石橋正孝編『歴史の総合者として:大西巨人未刊行批評集成』幻戯書房 2017.11
41. キース・モクシー,アンヌ＝マリー・ボネ,ロール・シュワルツ＝アレナレス,松本健太郎,山口誠,田中正樹,小林頼子,青山愛香,工藤達也,阿部明日香,福田美雪,柿田秀樹,片山亜紀,若森栄樹『〈見える〉を問い直す』彩流社 2017.12
42. 浜井武,川光俊哉,多田一臣,絳秀実,阿部和正,石橋正孝,伊豆原潤星,坂堅太,田中正樹,橋本あゆみ,竹峰義和,山口直孝,田代ゆき,齋藤秀昭『大西巨人:文学と革命』翰林書房 2018.3
43. 野間文史訳注『春秋左伝正義譯注第一冊(序・隱公・桓公篇)』明德出版社 2017.10
44. 野間文史訳注『春秋左伝正義譯注第二冊(莊・閔・僖公篇)』明德出版社 2017.10
45. 朴暎美他『在朝日本人日本語文学史序説』亦楽出版社 2017.6
46. 朴暎美他『東西洋古典人物誌』宝庫社 2017.9
47. 王宝平主編『東亜比較文化論集』西南師範大学出版社 2017.9
48. 河野貴美子,Wiebke Denecke,新川登亀男,陣野英則,谷口真子,宗像和重,堀川貴司,海野圭介,新美哲彦,佐藤勝明,福島理子,池澤一郎,鈴木正信,下村周太郎,尾上陽介,水口幹記,阿部龍一,小川豊生,町泉寿郎,一戸渉,鳥井裕美子,金時徳,後藤昭雄,合山林太郎,小林文雄,八鍬友広,松田泰代,岩坪充雄,佐々木孝浩,小井土守敏,金文京,三木雅博,鈴木彰,山田俊治『日本「文」学史』第2冊 勉誠出版 2017.6

#### 研究支援者

49. 清水信子,武田祐樹他「企画展 解体新書展—ニッポンの「医」の歩み 1500年図録」(公益財団法人東洋文庫) 2016.1
50. 池野範男,榮新江 著村井恭子 訳,孟憲実 著王鼎 訳,劉安志 著楽洵 訳,裴成国 著丁世理 訳,許飛,朱玉麒 著劉怡 訳西村陽子 監訳,猪飼祥夫,荒見泰史,高井龍,荻原裕敏,笠井幸代,慶昭蓉,田衛衛 著白石将人 訳,石見清裕,中川修,金子民雄,小島康誉,加藤斗規,森栄司,柱本めぐみ,柴田幹夫,闕正宗 著魏瑾 訳,川邊雄大,高本康子,野世英水,菅澤茂,門司尚之,橋口和真,大田黒綾奈,筑間正泰,白須浄眞『シルクロードと近代日本の邂逅:西域古代資料と日本仏教』勉誠出版 2016.3

#### <学会発表>

1. 町泉寿郎「筆談 幕末遺老芳野金陵と清国公使館員の筆談録」シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション —筆談・現代アート・映像」於:浙江工商大学 2015.10.30 \*8
2. 町泉寿郎「Leon de Rosny Collection 管見」リール第三大学ワークショップ 於:リール第三大学 2016.2.12 \*7
3. 町泉寿郎「漢字文化とコミュニケーション — 新出の芳野金陵と清国公使館員の筆談録」SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」於:倉敷市 2016.3.12 \*1
4. 町泉寿郎「趣旨説明 —二松学舎の漢学教育を例として」SRF 国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」於:台湾師範大学 2016.3.30 \*8
5. 江藤茂博「日本の近代高等教育における中国学の展開と現在」中国三省大学日本語教育学会 於:安徽大学 2015.10.17 \*8
6. 江藤茂博「映像 物語空間のなかの漢字文化」シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション —筆談・現代アート・映像」於:浙江工商大学 2015.10.30 \*8

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

7. 江藤茂博「方法としての漢学者・漢学塾」SRF 国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」 於:福華国際文教会館(台湾大学) 2016.3.29 \*8
8. 田中正樹「宋代山水表現に於ける視覚と聴覚」第 27 回獨協インターナショナル・フォーラム「見えるを問いなおす—アート、イメージ、テキスト」 於:獨協大学 2015.12
9. 田中正樹「大西巨人と漢詩文—『申請喜劇』を題材に—」公開ワークショップ「大西巨人の現在—変革の精神の系譜—」 於:本学 2016.2.27
10. 牧角悦子「黎明期の中国学 —近代学術における日中の情報交換」シンポジウム「近代東アジアの思想と文化」 於:嘉興学院 2015.10.31 \*8
11. 牧角悦子「リール図書館蔵レオン・ド・ロニー旧蔵書漢籍資料について」リール第三大学ワークショップ 於:リール第三大学 2016.2.12 \*7
12. 牧角悦子「山田方谷と閑谷学校」SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 \*1
13. 牧角悦子「山田方谷の教育実践 —閑谷学校との関連から」SRF 国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学」 於:台湾師範大学 2016.3.30 \*8
14. 加藤国安「明治漢文教科書に見る備中人の漢学」SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 \*1
15. 朴暎美「日治期朝鮮の漢文教科書における日本漢学の様子」SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 \*1
16. 王宝平「三島中洲と明治前期に來日した中国人」SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 \*1
17. 合山林太郎「日本漢文学プロジェクトの現状—見えてきた課題と今後の展望—」SRF 第 1 回テーブルスピーチ 2015.12.17 \*8
18. 合山林太郎「近代の漢詩詞華集と教育との関係」SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 \*1
19. 町泉寿郎「東京大学文学部から見た哲学・宗教学・倫理学の形成と井上哲次郎」釜山大学校佔畢齋研究所主催シンポジウム 於:釜山大学校 2016.7.14 \*20
20. 町泉寿郎「二松学舎大学における近代漢学研究の取り組み」中国日語教学研究会浙皖贛分会 2016 年会 於:江西師範大学 2017.10.22 \*8
21. 町泉寿郎「『医経千文』からみた芦東山の医学」芦東山生誕 320 年・芦東山記念館開館 10 周年記念講演会 於:一関市大東コミュニティーセンター 2016.11.5 \*5
22. 町泉寿郎「二松学舎の日本漢学研究に関する取り組み」SRF 主催・上海師範大学共催シンポジウム 於:上海師範大学 2016.12.25 \*8
23. 町泉寿郎「日本漢学簡介」上海師範大学大学院講演会 於:上海師範大学 2016.12.29 \*8
24. 町泉寿郎「洪沢栄一と三島中洲の接点」国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於:パリ第 7 大学 2017.2.11 \*3\*8
25. 牧角悦子「文学史という方法論」第 8 回日中学者中国古代史論壇 2016.5.20
26. 牧角悦子「山田方谷と閑谷学校」第 122 回三島中洲研究会 於:本学 2016.5.28
27. 牧角悦子「中国の近代学術」国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」 於:パリ第 7 大学 2017.2.11 \*8
28. 牧角悦子「夏目漱石の「風流」 —明治人にとっての漢詩」SRF 主催国際シンポジウム「漢文脈の漱石」 於:本学 2017.3.11 \*8
29. 稲田篤信「唐音・訓読・国字解 —平賀中南の読書論—」第 3 回 SRF 研究報告会 於:本学 2016.4.28 \*12
30. パラモア・キリ「20 世紀政治儒教の世界的様子」国際シンポジウム「東アジアの近代化と



法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 漢学」於:パリ第7大学 2017.2.11 \*8
31. 朴暎美「近代期における韓国経学研究について」成均館大学校東アジア学院人文韓国(HK)研究所 国際学術会議 2016.8.23
  32. 朴暎美「近代期における朝鮮と日本の女性用漢文教材中の‘女性’」韓国古典女性文学会秋季学術大会 2016.10.29
  33. 朴暎美「細井肇の朝鮮古書刊行事業について」大東漢文学会秋季学術大会 2016.11.7
  34. 朴暎美「文明開化期日本の漢学者三島中洲」釜山大学校佔畢齋研究所 2017.1.18 \*20
  35. 朴暎美「洪沢栄一を偲ぶ朝鮮の人々」SRF・公益財団法人洪沢栄一記念財団主催シンポジウム 2017.1.30 \*3
  36. 合山林太郎「幕末期の諫早における医と漢詩:野口良陽、松陽父子を例に」漢蘭折衷に関する総合的研究シンポジウム 2017.3.9 \*8
  37. 合山林太郎「蔵書を用いた漱石漢詩読解の試み—所載文献に焦点をあてて」SRF シンポジウム「漢文脈の漱石」於:本学 2017.3.11 \*8
  38. 町泉寿郎「幕末遺老芳野金陵と清国公使館員の新出の筆談録」東亜筆談読書会 於:浙江大学 2017.5.5 \*6
  39. 町泉寿郎「前近代と近代の学問の断絶 易と漢方」易学連合会主催第5回シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」於:本学 2017.6.25 \*8
  40. 町泉寿郎「日本の大学における古典学の現況」SRF シンポジウム「文学部の現在」於:本学 2017.7.8 \*8
  41. 町泉寿郎「漢学・漢学者・漢学塾に関する持続可能なコンソーシアムづくりをめざして」SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所共催「漢学者記念館会議」於:本学 2017.7.29 \*5
  42. 町泉寿郎「日本近代の「漢学」教育・研究をめぐって —制度」大連大学創立 30 周年記念シンポジウム 於:大連大学 2017.9.16
  43. 町泉寿郎「近代日本漢学と東アジア」SRF・成均館大学校国際学術交流会 於:本学 2017.9.21 \*21
  44. 町泉寿郎「近代日本の知の形成と漢学」プロジェクトの活動状況 SRF・鄭州大学国際学術交流会 於:本学 2017.9.22 \*8
  45. 町泉寿郎「以医学史観点審視日本漢学特色」東亜漢学国際学術研究会 於:佛光大学 2017.10.7
  46. 町泉寿郎「蝦夷地・小笠原島における漢学との関わり」東アジア日本研究者協議会第2回国際学術大会 於:南開大学 2017.10.29
  47. 町泉寿郎「Modification of Kanbun Studies in Meiji Japan」Confucian Modernity as Japanese Experience in East Asian Context 於:京都大学 2017.11.3
  48. 町泉寿郎「近代日本の教科書と漢文」SRF・北京第二外国語大学・釜山大学校共催シンポジウム 於:北京第二外国語大学 2017.11.5 \*8
  49. 町泉寿郎「日本漢学の過去と現在」SRF・魯東大学共催シンポジウム 於:魯東大学 2017.11.7 \*20
  50. 町泉寿郎「芳野金陵及びその門人知友と清国公使館員による新出の筆談録」浙江大学主催・SRF 共催シンポジウム「東アジア筆談研究」於:浙江大学 2017.11.18 \*6
  51. 町泉寿郎「西村天囚の近代漢学における意義について」第27回懐徳堂研究会 於:大阪大学 2017.12.3
  52. 町泉寿郎「小笠原開拓碑をめぐる明治期漢学者たち」第12回台湾大学日本語文創新国際学術研究会 於:台湾大学 2017.12.9 \*8
  53. 町泉寿郎「近代岡山の実業家と漢学者」SRF・公益財団法人洪沢栄一記念財団主催シ

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

	ンポジウム 於:新溪園(倉敷市) 2018.1.29 *3
54.	町泉寿郎「レオン・ド・ロニー旧蔵の和漢古典籍について」SRF レオン・ド・ロニー資料調査報告会 於:ライデン大学 2018.2.24 *7
55.	町泉寿郎「近代日本の漢学と渋沢栄一の公益事業」SRF 近代漢学ワークショップ 於:ボルドー大学 2018.2.28 *3*8
56.	江藤茂博「日本の文学部形成」SRF シンポジウム「文学部の現在」 於:本学 2017.7.8 *8
57.	江藤茂博「日本近代の「漢学」教育・研究をめぐって —文芸」大連大学創立 30 周年記念シンポジウム 於:大連大学 2017.9.16
58.	江藤茂博「日本アニメーション史と東アジア」SRF・北京第二外国語大学・釜山大学校共催シンポジウム 於:北京第二外国語大学 2017.11.5 *8
59.	江藤茂博「近代日本の高等教育・学問形成と漢学そして財界人」SRF・魯東大学共催シンポジウム 於:魯東大学 2017.11.7 *20
60.	江藤茂博「近代日本の漢学と文学・教育・学問—教育を中心に—」SRF 近代漢学ワークショップ 於:ボルドー大学 2018.2.28 *8
61.	田中正樹「易学の展開(近世以降)」易学連合会主催第 5 回シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」 於:本学 2017.6.25 *8
62.	田中正樹「三島中洲の経学と『私録』」陽明学研究室主催三島中洲シンポジウム 於:本学 2017.10.21
63.	牧角悦子「易学の形成(古代～中世まで)」易学連合会主催第 5 回シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」 於:本学 2017.6.25 *8
64.	牧角悦子「研究としての漢学—漢学から中国学へ—」大連大学創立 30 周年記念シンポジウム 於:大連大学 2017.9.16
65.	牧角悦子「近代日本における中国古典学と「漢文」 —訓読から音読へ—」SRF・北京第二外国語大学・釜山大学校共催シンポジウム 於:北京第二外国語大学 2017.11.5 *8
66.	牧角悦子「日本における儒教 —その発展過程と特徴—」SRF・魯東大学共催シンポジウム 於:魯東大学 2017.11.7 *20
67.	牧角悦子「レオン・ド・ロニー旧蔵の漢籍について」SRF レオン・ド・ロニー資料調査報告会 於:ライデン大学 2018.2.24 *7
68.	牧角悦子「近代日本における漢学の変容」SRF 近代漢学ワークショップ 於:ボルドー大学 2018.2.28 *8
69.	山口直孝「物としての〈資料〉が語ること—大西巨人・横溝正史旧蔵資料の調査から」昭和文学会第 60 回研究集会 於:実践女子大学渋谷キャンパス 2017.5.13
70.	徐興慶「「中期水戸学」形成の試論」SRF 第 5 回テーブルスピーチ 於:本学 2017.7.11 *8
71.	朴暎美「対馬における漢学との関わり」東アジア日本研究者協議会第 2 回国際学術大会 於:南開大学 2017.10.29
72.	王宝平「中国の高等教育機関における日本語教育・日本研究の現状と展望」SRF シンポジウム「文学部の現在」 於:本学 2017.7.8 *8
73.	合山林太郎「近世日本における袁宏道受容史の再検討:詩を中心に(袁宏道対江戸時代日本文人影响的再考察:以詩为中心)」第二屆南京大學域外漢籍研究國際學術研討會 於:南京大学域外漢籍研究所 2017.7.1
74.	合山林太郎「野口寧齋と在清日本人のネットワーク:文廷式との交流・蔵書形成」第 10 回和漢比較文学会海外特別例会・和漢比較文学会 於:西北大学外国語学院 2017.8.31

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

#### 研究員

平成 27 年度研究員

75. 徳重公美「徂徠学における道德の再検討」SRF 第 1 回研究報告会 於:本学 2016.1.21 \*8

76. 徳重公美「荻生徂徠の思想における「聖人」の位置づけと丸山真男の「近代」」SRF 主催国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.12 \*1

平成 28 年度研究員

77. 山口智弘「「反近代」の中の「近代」 —安井息軒の経世論と近代日本」東アジア日本研究者協議会第 1 回国際学術大会 於:仁川(韓国) 2016.12.1

平成 29 年度研究員

78. 商兆琦「田中正造の思想世界:神、天、聖、無、天国」SRF 次世代研究発表会 於:本学 2017.7.8 \*8

#### 研究支援者

79. 川邊雄大「明治期の琉球における真宗法難事件について」東アジア文化交渉学会「東アジア文化交渉学会第 7 回国際シンポジウム 於:神奈川県開成町 2015.5.10

80. 川邊雄大「科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」終了報告」淡窓研究会 於:謙堂文庫 2015.6.6

81. 川邊雄大「書評:藤田拓之『居留民の上海』について」日本上海市研究会例会 於:日本大学通信教育部 2015.6.13

82. 川邊雄大「幕末明治期における 真宗僧と咸宜園」僧侶・教師研修会 於:沖縄県宜野湾市・東本願寺沖縄別院 2015.6.15

83. 川邊雄大「明治期琉球における真宗法難事件をめぐる—東本願寺と内務省の対応を中心に—」仏教史学会第 66 回学術大会 於:京都府・花園大学拈花館 2015.11.22

84. 川邊雄大「白岩龍平とその人脈」三島中洲研究会 於:倉敷市倉敷公民館 2016.1.24 \*2

85. 川邊雄大「真宗僧による漢学受容と日中文化交流」大東文化大学人文科学研究所平成 27 年度座談会 於:東京・大東文化会館 2016.1.30

86. 川邊雄大「維新変革と日本思想への影響」国士舘大学政治経済学部経済研究所研究会 於:国士舘大学 2016.2.16

87. 川邊雄大「白岩龍平とその周辺」SRF 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 \*1

88. 清水信子「漢蘭折衷医学の人々とその蔵書」第 116 回日本医史学会学術大会 於:綿業会館 2015.4.15

89. 清水信子「備前備中、讃岐における近世医家所蔵資料について」国文研主導共同研究「アジアの中の日本古典籍—医学・理学・農学書を中心として—」第 2 回研究会 於:国文学研究資料館 2015.6.27

90. 清水信子「江戸後期の備中・備前の医家と漢学」SRF 主催国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育」 於:倉敷市 2016.3.13 \*1

91. 川邊雄大「大谷光瑞の対外政策と研究者たち —中尾万三・岡西為人を例として—」東アジア文化交渉学会 東アジア文化交渉学会第 8 回国際シンポジウム 於:関西大学 2016.5.8

92. 川邊雄大「咸宜園研究の現状と課題について」淡窓研究会 於:本学 2016.6.4

93. 川邊雄大「大谷光瑞の思想と対外観の形成について」近代仏教史研究会 於:新潟大学

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

東京事務所 2016.6.5

94. 川邊雄大「国士館大学体育学部における中国語教育の現状と課題」中国語文学会第153回定例学術研究発表会 於:東京語文学院日本語センター 2016.6.19
95. 川邊雄大「真宗僧と咸宜園」国士館大学政治経済学部経済研究所研究会 於:国士館大学 2017.3.9
96. 清水信子「海保漁村の学問—幕末日本の考証学」SRF 主催・上海師範大学共催シンポジウム 於:上海師範大学 2016.12.25 \*8
97. 清水信子「江戸後期から明治期における考証学—海保漁村を中心として」国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」於:パリ第7大学 2017.2.11 \*8
98. 清水信子「近世における地方医家の学問修業」「漢蘭折衷医学に関する総合的研究」シンポジウム 於:本学 2017.3.10 \*8
99. 川邊雄大「中国ビジネスの視点から見た日清貿易研究所」東アジア文化交渉学会第9回年次大会 於:北京外国語大学 2017.5.14
100. 川邊雄大「19世紀の真宗僧と漢学—東本願寺の辺境・海外布教を例として」東アジア日本研究者協議会第2回国際学術大会 於:南開大学 2017.10.29
101. 川邊雄大「戦前期に日本国内(内地)・台湾・朝鮮で使用された漢文教科書について」SRF・檀国大学校国際学術交流会 於:本学 2018.1.15 \*8
102. 川邊雄大「漢学者加藤虎之亮の事蹟と旧蔵資料—宮内省関係文書を中心に—」三島中洲研究会 於:本学 2018.3.19 \*9
103. 清水信子「赤木家の人々とその蔵書」第118回日本医史学会学術大会 於:京都大学 2017.6.10

#### 研究助手

104. 加畑聡子「田村(津田)玄仙による学校設立の試み」『日本医史学雑誌』第60巻第4号 日本医史学会
105. 加畑聡子「水戸藩医・原南陽の医学教育」第6回水戸徳川家旧蔵史料調査報告会 2015.8.1
106. 加畑聡子「近世日本における医学公教育の形成—経穴学教育を中心に—」第43回日本伝統鍼灸学会学術大会課題研究発表 於:タワーホール船堀 2015.10.24
107. 加畑聡子「小坂元祐の経穴書」中日中医經典研究国際学術研討会 於:南京中医薬大学 2016.3.21
108. 武田祐樹「江戸初期(17世紀前半)における朱子学および儒者の意義—林羅山を中心に—」SRF第1回研究報告会 於:本学 2016.1.21 \*8
109. 楊爽「近代における漢文小説の「還流」—依田学海『譚海』と『東海遺聞』の関係をを中心に—」日本聞一多学会第十九回研究大会 於:東洋大学 2015.7
110. 楊爽「依田学海と中国古典『聊齋志異』—「小野篁」と「蓮花公主」との比較研究を中心に—」国際シンポジウム「近代東アジアの思想と文化—中国・日本の文化交流の視点から」於:嘉興学院 2015.10.31 \*8
111. 阿部和正「内面化する著作—『三四郎』における学生たちの言論—」日本近代文学会2016年度秋季大会 於:福岡大学 2016.10
112. 阿部和正「漢学塾のなかの漱石—講義録・証言からたどる「教養」形成—」SRF主催国際シンポジウム「漢文脈の漱石」於:本学 2017.3.12 \*8
113. 加畑聡子「山崎宗運の「骨度折量尺」」第118回日本医史学会総会・学術大会 於:広島県医師会会館 2016.5.21
114. 加畑聡子「講義 江戸時代の経穴学教材—銅人形を題材として—」北里大学東洋医学

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

- 総合研究所主催「第 11 回鍼灸学校教員のための古典講座」於:北里大学白金キャンパス 2016.8.6-7
- 115.加畑聡子「山崎宗運の『天聖銅人腧穴鍼灸図経彙攷』に見える加筆について」世界鍼灸学会連合会 2016 世界大会(WFAS Tokyo/Tsukuba 2016) 於:つくば国際会議場 2016.11.5-6
- 116.加畑聡子「近世後期の水戸藩における医学公教育の形成—本間家の医学を基軸として」東アジア日本研究者協議会第 1 回国際学術大会 於:韓国・仁川 2016.12.1
- 117.加畑聡子「講義 科学史 対象:中国人留学生」日本・アジア青少年サイエンス交流計画「さくらサイエンスプラン」於:本学 2016.12.7
- 118.加畑聡子「江戸中後期の医学公教育における漢蘭折衷」「漢蘭折衷医学に関する総合的研究」シンポジウム 於:本学 2017.3.10 \*8
- 119.阿部和正「内向化する「文学者」—『野分』における演説と述作の有り様」全国大学国語国文学会第 115 回研究発表大会 於:早稲田大学 2017.6.4
- 120.加畑聡子「山崎宗運撰『大椎攷』についての比較検討」第 68 回日本東洋医学会 於:名古屋国際会議場 2017.6.3
- 121.加畑聡子「小坂元祐撰『十四経絡發揮広要』について」第 118 回日本医史学会 於:京都大学芝蘭会館 2017.6.11
- 122.加畑聡子「19 世紀日本の経穴学にみる漢蘭折衷」SRF 次世代研究発表会 於:本学 2017.7.8 \*8
- 123.加畑聡子「江戸時代の「経絡人形」についての一考察—北里大学東洋医学総合研究所所蔵「経絡人形」を中心に—」第 45 回日本伝統鍼灸学会 於:石川県立音楽堂 ※日本伝統鍼灸学会発表奨励賞受賞 2017.10.25
- 124.加畑聡子「曲亭馬琴の日記にみる近世後期江戸における医学派の諸相」第 12 回台湾大学日本語文創新国際学術研討会 於:台湾大学 2017.12.9 \*8
- 125.加畑聡子「山崎宗運「骨度折量法尺式」と梯謙「脊尺」」第 5 回鍼灸医学史研究発表会 於:北里大学白金キャンパス 2018.1.7
- 126.武田祐樹「林羅山と清原宣賢の校勘学 —『三略直解』をめぐって」SRF 次世代研究発表会 於:本学 2017.7.8 \*8
- 127.平崎真右「近代「日本」の「表記」をめぐって:「漢字」を超克する志向と文脈」SRF 次世代研究発表会 於:本学 2017.7.8 \*8
- 128.平崎真右「教学研究班による訪問調査の事例報告:成田高等学校を中心に」SRF・早稲田大学中国古籍文化研究所共催「漢学者記念館会議」於:本学 2017.7.29 \*8
- 129.平崎真右「現代中国にみる「食」行動とその意識:「EC」環境の浸透と「CSA」を視野に」岡山商科大学・二松學舎大学共同プロジェクトフードビジネス研究会主催「流通とコミュニケーションからみるフードビジネス」於:本学 2018.3.24
- 130.楊爽「『譚海』における「実録物」の受容と変容 —「孝義復讐」を事例として—」メディア表現研究会第三回例会研究発表会 於:本学 2017.6
- 131.楊爽「漢文白話体小説の書き手「秋風道人」とは誰か —依田学海の創作活動の一面—」SRF 次世代研究発表会 於:本学 2017.7.8 \*8
- 132.楊爽「依田学海『譚海』の海外への影響をめぐって」第 12 回台湾大学日本語文創新国際学術研討会 於:台湾大学 2017.12.9 \*8

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等  
ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

【シンポジウム・学会等】

平成 27 年度(ホームページの URL : <http://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/2015.html>)

1. 国際シンポジウム「漢字文化とコミュニケーション —筆談・現代アート・映像」(会場:浙江工商大学) 2015.10.30 \*8
2. 国際ワークショップ(会場:リール第三大学) 2016.2.12 \*8
3. 国際ワークショップ(会場:ライデン大学) 2016.2.15 \*8
4. 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育 —備中倉敷から東アジアの近代教育を考える」(会場:倉敷市立美術館講堂) 2016.3.12-13 \*1
5. 国際シンポジウム「東アジアの教育制度のなりたちと漢学 —日本と台湾 近代教育制度の基盤となったもの」(会場:台湾大学・台湾師範大学) 2016.3.29-30 \*8

平成 28 年度(ホームページの URL : <http://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/2016.html>)

6. 国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と文献研究」(会場:上海師範大学) 2016.12.25 \*8
7. シンポジウム「「論語」と「算盤」が会う東アジアの近代 渋沢栄一と三島中洲」(会場:本学・倉敷市立美術館講堂) 2017.1.21,31 \*3
8. 国際シンポジウム「東アジアの近代化と漢学」(会場:パリ第7大学) 2017.2.11 \*8
9. 国際シンポジウム「漢文脈の漱石」(会場:本学) 2017.3.11-12 \*8

平成 29 年度(ホームページの URL : <http://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/2017.html>)

10. シンポジウム「易学の展開と近代 易を現代に生かす」(会場:本学) 2017.6.25 \*8
11. 国際シンポジウム「文学部の現在 東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学/儒学」(会場:本学) 2017.7.8 \*8
12. 「第1回漢学者記念館会議」(会場:本学) 2017.7.29 \*5
13. 国際シンポジウム「「映像」「教科書」「漢字」—メディアと文学・思想」(会場:北京第二外国语学院) 2017.11.5 \*8
14. 国際シンポジウム「儒学の現代性と東アジア文化圏の再構築」(会場:魯東大学) 2017.11.7 \*20
15. シンポジウム「東アジア筆談研究」(会場:浙江大學) 2017.11.18-19 \*6
16. シンポジウム「近代岡山における実業家と学術・文化・公益事業」(会場:倉敷市新溪園) 2018.1.29 \*3
17. 国際ワークショップ(会場:モンテニュー大学) 2018.2.28 \*8

<これから実施する予定のもの>

- ・シンポジウム「内経学の系譜と漢学教育」 2018.4.30
- ・国際ワークショップ「東アジアにおける漢文文化の伝播と流通」 2018.7.21

【ホームページ】

本プロジェクトのホームページを作成し、以下の URL で活動報告、研究成果等を公開している。

<http://www.nishogakusha-kanbun.net/srf/>

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

#### 14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには\*を付してください。

##### セミナー・公開講座

1. SRF・浙江工商大学共催日本漢学上級セミナー 平成28年度～ \*19
2. SRF 公開講座 平成28年度「幕末・明治の漢詩」全5回・「幕末・明治の漢文」全5回  
平成29年度「幕末・明治の漢詩」全8回・「幕末・明治の漢文」全8回

##### 学術交流会

3. SRF・成均館大学校学術交流会 2017.9.21 於:本学 \*21
4. SRF・鄭州大学学術交流会 2017.9.22 於:本学 \*8
5. SRF・檀国大学校学術交流会 2018.1.15 於:本学 \*8

##### 研究会

6. 三島中洲研究会・山田方谷研究会  
平成27年度 6回  
平成28年度 4回  
平成29年度 7回
7. 漢文教科書研究会  
平成28年度 2回  
平成29年度 2回
8. 医療文化史研究会  
平成27年度 2回

##### 刊行物

9. 「国際シンポジウム 近代東アジアの漢学と教育—備中倉敷から東アジアの近代教育を考える—」予稿集 二松學舎大学 SRF 2016.3.12 \*1
10. 「文学部の現在 —東アジアの高等教育 文学・外国語学・古典学/儒学」予稿・資料集 二松學舎大学 SRF・文学部 2017.7.8 \*8
11. 「漢学者記念館会議」予稿集 二松學舎大学 SRF 2017.7.29 \*5
12. ニュースレター『雙松通説』Vol.20 二松學舎大学 SRF 2015.8.31
13. ニュースレター『雙松通説』Vol.21 二松學舎大学 SRF 2016.7.31
14. ニュースレター『雙松通説』Vol.22 二松學舎大学 SRF 2017.4.25

##### 学位論文

15. 武田祐樹(研究助手)「林羅山の学問形成とその特質—古典注釈書と編纂事業を中心に」2018.3 学位「博士(日本漢学)」 \*18
16. 楊爽(研究助手)「依田学海研究—漢文小説を中心に—」2018.3 学位「博士(文学)」 \*18

##### 書評

17. 牧角悦子「文学研究者への挑戦状——渡邊義浩著『古典中国における文学と儒教』」

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

『三国志研究』第10号 三国志学会 2015.9 159-168 頁

#### 研究員

18. 山口智弘「Kiri Paramore.Japanese Confucianism:A Cultural History.」『日本漢文学研究』第12号 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.3 177-183 頁

#### 研究支援者

19. 川邊雄大「白須淨眞編『大谷光瑞とスヴェン・ヘディン—内陸アジア探検と国際政治社会』』『書論』第41号 書論編集室 2015.8 251-253 頁
20. 川邊雄大「『居留民の上海—共同租界行政をめぐる日英の協力と対立』について」『西洋史学』258号 日本西洋史学会 2015.9 79-81 頁

#### 小文

21. 加藤国安「人類の未来と日本漢詩」『季報』92 2 頁 二松学舎大学附属図書館 2015.7
22. 加藤国安「京極高朗(琴峰)公と漢詩」『第14回全国藩校サミット丸亀大会』冊子 2016.11 16-17 頁
23. 加藤国安「絵も及ばない高潔の人、岡本黄石」『世田谷区立郷土資料館 資料館だより』No.66 2017.3 1-7 頁
24. 合山林太郎「中国・西安で日本漢文学研究のグローバル化について考える:第8回和漢比較文学会海外特別例会発表についての報告」『雙松通信』Vol.21 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2016.7 11-13 頁
25. 王宝平「2016年中国大学教員“日本漢学”上級セミナー開催報告」『雙松通信』Vol.22 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.4 22-24 頁  
\*19

#### 研究支援者

26. 川邊雄大「科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」について」黄運喜編『台湾仏教研究』第4巻第1期 2015.6 19 頁
27. 川邊雄大「第6回東アジア文化交渉学会年次大会」に参加して」『雙松通訊』No.20 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2015.8 5-7 頁
28. 川邊雄大「新刊紹介 『浄土真宗と近代日本—東アジア・布教・漢学—』について」『台湾仏教研究』(闕正宗編)第5巻第1期 2016.5 8-10 頁
29. 川邊雄大「科研費「北九州の真宗を例とした仏教近代化に関する基礎的研究」終了報告」『淡窓研究会会報』第8号 淡窓研究会 2016.6 3-5 頁
30. 川邊雄大「咸宜園研究の現状と課題について」『淡窓研究会会報』第8号 淡窓研究会 2016.6 9-10 頁
31. 川邊雄大「第7回東アジア文化交渉学会年次大会に参加して」『雙松通訊』No.21 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2016.7 8-10 頁
32. 川邊雄大「本学教職員著書紹介」『二松学舎大学附属図書館 季報』第98号 二松学舎大学附属図書館 2016.12 7 頁
33. 川邊雄大「第8回東アジア文化交渉学会年次大会に参加して」『雙松通訊』No.22 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.4 17-19 頁
34. 清水信子「国際シンポジウム「近代東アジアの漢学と教育—備中倉敷から東アジアの近代教育を考える—」に参加して」『雙松通訊』No.22 二松学舎大学東アジア学術総合研



法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

研究所日本漢文教育研究推進室 2017.4 11-13 頁 \*1

#### 研究助手

35. 楊爽「小文 国際シンポジウム「近代東アジアの思想と文化—中国・日本の文化交流の視点から」に参加して」『雙松通信』Vol.21 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2016.7 16-18 頁 \*8
36. 阿部和正「近代文学研究班 研究報告」『雙松通信』Vol.22 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.4 31-32 頁
37. 平崎真右「小文 教学研究班 アンケート調査:経過報告」『雙松通信』Vol.22 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.4 27-30 頁
38. 楊爽「小文 SRF 学術研究班・研究報告」『雙松通信』Vol.22 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢文教育研究推進室 2017.4 25-26 頁

#### 講演・講義

39. 町泉寿郎「三島中洲について」市民公開講座 於:倉敷市 2015.10.11 \*2
40. 町泉寿郎「山田方谷と三島中洲について」市民公開講座 於:倉敷市 2015.11.22 \*2
41. 牧角悦子「山田方谷と三島中洲」山田方谷の軌跡講演会 於:高梁市 2016.1.23 \*2
42. 町泉寿郎「山田方谷と三島中洲」SRF・倉敷市・「山田方谷の軌跡」実行委員会共催講演会 於:倉敷市 2016.5.1 \*2
43. 町泉寿郎「共同体としての東アジア」海外著名学者招請講演会 於:慶尚大学校 2016.11.28 \*8
44. 田中正樹「三島中洲の経学」二松学舎大学資料展示室講演会 2016.6 \*2
45. 田中正樹「山田方谷の思想 —『孟子養氣章或問圖説』の「圖を中心に—」山田方谷の軌跡」講演会 於:井原市民会館 2016.8.20 \*2
46. 田中正樹「三島中洲の学術」くらしき市民講座 於:ライフパーク倉敷 2016.12.3 \*2
47. 牧角悦子「幕末明治期の備中備前の名士たち —三島・野崎・大原—」備中倉敷学 於:倉敷市 2016.7.14 \*2
48. 山口直孝「英国留学時代の漱石と『夢十夜』」夏目漱石没後百年記念文化講演会 & 声のことばミニ劇場 於:神田外語学院アッセンブリー・ホール 2016.10.22
49. 山口直孝「写生の系譜 —子規・漱石・虚子」『書教』700号記念講演会 於:明治大学紫紺館 2016.11.27
50. 稲田篤信「江戸期の西行伝承 —面—秋成と竹窓の場合—」第8回西行学会大会公開講演会 於:本学 2016.8.27
51. 稲田篤信「庶民の分度 —上田秋成と『論語』—」平成28年度「論語の学校」 於:本学 2016.11.19
52. 稲田篤信「平賀晋民の人と学問」SRF・三原市教育委員会共催講演会「平賀晋民の世界」 於:三原市中央公民館中講堂 2017.3.18 \*12
53. 野間文史「平賀晋民と四書五経」SRF・三原市教育委員会共催講演会「平賀晋民の世界」 於:三原市中央公民館中講堂 2017.3.18 \*13
54. 加藤国安「京極高朗(琴峰)公と漢詩」第14回全国藩校サミット丸亀大会 2016.11.27
55. 町泉寿郎「岡山の実業家と漢学者」公益財団法人竜王会館主催講演会 於:野崎家別邸(倉敷市) 2017.11.9 \*2
56. 町泉寿郎「山田方谷門下の原田一道と三島中洲」山田方谷の軌跡(～奇跡～)主催講

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

演会 於:笠岡市中央公民館 2018.1.28 \*2

57. 加藤国安「長野豊山について—鳴りわたる嘉声」第 67 回先儒祭墓前講話 於:大塚  
2017.10.22

研究支援者

58. 清水信子「二松學舎の漢学教育」創立 140 周年記念特別展「三島中洲と近代 其五—二  
松學舎の漢学教育」講演会 2017.12.16 \*11

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

該当なし

<「選定時」に付された留意事項への対応>

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

## 16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 担 負	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他( )	
平成 27 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	38,970	21,709	17,261				
平成 28 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	41,831	24,498	17,333				
平成 29 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	41,485	24,130	17,355				
総 額	施 設	0	0	0	0	0	0	
	装 置	0	0	0	0	0	0	
	設 備	0	0	0	0	0	0	
	研究費	122,286	70,337	51,949	0	0	0	
総 計	122,286	70,337	51,949	0	0	0		

## 17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施 設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施 設 の 名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
東アジア学術総合研究所	平成26年度	119m <sup>2</sup>	3	20			

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m<sup>2</sup>

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
DB構築作業用PC	27年度	VJZ13A1	1	1,248	351	175	私学助成
作業用PC	27年度	FMVA08020P	5	7,275	1,047	523	私学助成
DB構築作業用PC	27年度	PC-HZ750DAB	1	624	203	101	私学助成
デジタルフィルムスキャナ	27年度	SL1000	1	4,716	1,035	517	私学助成
				h			

## 18 研究費の支出状況

(千円)

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	2,477	コピー用紙購入、資料保存資材購入	2,477
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	280	刊行物発送 他	280
印 刷 製 本 費	1,377	刊行物印刷製本、文献複写 他	1,377
旅 費 交 通 費	4,439	出張旅費、招聘旅費	4,439
報 酬 ・ 委 託 料	10,763	書類整理、資料デジタル化 他	10,763
( そ の 他 )	1,634	謝金、会議費 他	1,634
計	20,970		20,970
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人 件 費 支 出	49	漢学塾リストデータ入力	49
( 兼 務 職 員 )	22	シンポジウム動画編集	22
教 育 研 究 経 費 支 出			
計	71		71
設 備 関 係 支 出 (1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教 育 研 究 用 機 器 備 品	5,566		5,566
図 書	10,231		10,231
計	15,797		15,797
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	718	資料整理、シンポジウム等運営 他	718
ポスト・ドクター	817	研究推進、研究助手の指導 他	817
研究支援推進経費	595	研究支援、シンポジウム等運営 他	595
計	2,130		2,130

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

年 度	平成 28 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	3,510	コピー用紙購入、書簡購入 他	3,510
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	550	資料運搬、チラシ発送 他	550
印 刷 製 本 費	2,772	刊行物印刷製本、文献複写 他	2,772
旅 費 交 通 費	6,846	出張旅費、招聘旅費	6,846
報 酬 ・ 委 託 料	10,085	書類整理、資料デジタル化 他	10,085
( その他 )	808	謝金、会議費 他	808
計	24,571		24,571
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出	10	資料調査補助(撮影)	10
	15	資料整理	15
	50	シンポジウム運営補助	50
(兼務職員)			
教育研究経費支出			
計	75		75
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	275		275
図 書	11,095		11,095
計	11,370		11,370
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,796	資料整理、シンポジウム等運営 他	1,796
ポスト・ドクター	2,482	研究推進、研究助手の指導 他	2,482
研究支援推進経費	1,535	研究支援、シンポジウム等運営 他	1,535
計	5,813		5,813
年 度 平成 29 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消 耗 品 費	6,531	コピー用紙購入、書簡購入 他	6,531
光 熱 水 費			
通 信 運 搬 費	621	刊行物発送、チラシ発送 他	621
印 刷 製 本 費	3,373	刊行物印刷製本、文献複写 他	3,373
旅 費 交 通 費	7,646	出張旅費、招聘旅費	7,646
報 酬 ・ 委 託 料	4,700	書類整理、資料デジタル化 他	4,700
( その他 )	1,201	謝金、会議費 他	1,201
計	24,072		24,072
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出	67	購入資料の整理	67
	92	購入資料の整理	92
(兼務職員)			
教育研究経費支出			
計	159		159
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品			
図 書	11,591		11,591
計	11,591		11,591
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	1,811	資料整理、シンポジウム等運営 他	1,811
ポスト・ドクター	2,444	研究推進、研究助手の指導 他	2,444
研究支援推進経費	1,405	研究支援、シンポジウム等運営 他	1,405
計	5,660		5,660

法人番号	131074
プロジェクト番号	S1591004

学校法人名	二松学舎	大学名	二松学舎大学
研究プロジェクト名	近代日本の「知」の形成と漢学		

平成 27 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」

研究進捗状況報告書

# 別紙資料

外部(第三者)評価報告書

二松學舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」(平成 27 年度採択)

外部(第三者)評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 29 年度(中間評価)

【評価内容】

中間報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の進捗状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

A 順調に進捗している    B ほぼ進捗している    C あまり進捗していない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

A 順調に進捗している    B ほぼ進捗している    C あまり進捗していない

3. 日本漢学分野の研究者養成

A 順調に進捗している    B ほぼ進捗している    C あまり進捗していない

【特記事項】特に評価できる点、改善すべき点等をご記入ください。

近代日本の「知」の形成に漢学が果たした役割を多角的に解明する点が独創性である。

4つの研究班からなる組織づくり、中国・韓国・台湾・ヨーロッパなどの研究者・大学と結ぶ国際的研究ネットワーク、シンポジウムや講演会、公開講座、ニューズレターなどによる情報発信など、いずれも高く評価できる。特に平賀中南『春秋集箋』、柿村重松『松南雑草』などの整理・出版、『新収資料展 近代漢学の諸相』・『明治漢文教科書集成 第Ⅲ期』の刊行は着実な基礎研究として注目される。また若手育成の面では、平成 29 年度に新設された博士(日本漢学)の学位取得者が出ており、今後の発展が期待される。

もし改善すべき点があるとすれば、いわゆる実業(政治家や企業家)と漢学との関係についても、より広範な事例研究がなされれば、いっそう充実した成果につながると思われる。

評価日： 平成 30 年 4 月 20 日

評価者：所属・職位 関西大学・教授

氏名 吾妻 重二



二松學舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」(平成 27 年度採択)

外部(第三者)評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 29 年度(中間評価)

【評価内容】

中間報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の進捗状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

(A) 順調に進捗している      B ほぼ進捗している      C あまり進捗していない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

(A) 順調に進捗している      B ほぼ進捗している      C あまり進捗していない

3. 日本漢学分野の研究者養成

(A) 順調に進捗している      B ほぼ進捗している      C あまり進捗していない

【特記事項】特に評価できる点、改善すべき点等をご記入ください。

- 1、日本の近代化を西洋的学知の積極的な吸収によって牽引した知識人の背景にあった教養や語学習得の基盤に「漢学」が大きな役割を果たしたことに注目した問題意識そのものの意義が大きい。開国以降、蘭学から英学へと軸足を移す際にも蘭語学習が漢文学習の応用から始まり、初期翻訳理論の基盤も漢籍に求めていたことなどを考えれば、漢学と近代化を結びつける視点の重要性は一層喧伝されるべきであろう。
- 2、プロジェクトを推進するに当たり、日本の学内外の研究者、中・台・韓に加え、オランダの研究者も参加させるなど、研究員の構成と配置に優れている。
- 3、日本国内のみならず、海外も含めて、国際的シンポジウムを驚異的なペースで開催しており、テーマもいわゆる座学のみではなく、教育活動、実業家の業績にも目を向けるなど、漢学を国際規模でとらえようとする積極的な姿勢が見られる。漢学研究を志向する大学院生が増加したのは研究テーマの魅力を掘り起こした成果であろう。

評価日: 2018 年 4 月 27 日

評価者: 所属・職位 慶応義塾大学 日本語・日本文化教育センター 教授

氏名 木村 茂之 (印)



二松學舎大学文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「近代日本の「知」の形成と漢学」（平成 27 年度採択）

外部（第三者）評価報告書

【対象年度】 平成 27 年度～平成 29 年度（中間評価）

【評価内容】

中間報告書をご参照の上、研究目的を達成するための 3 本の柱の進捗状況について、該当する評価に○印をつけてください。

1. 国際的な研究ネットワークによる日本漢学研究の推進

A 順調に進捗している      B ほぼ進捗している      C あまり進捗していない

2. 日本漢学に関する各種の情報発信、および研究基盤の整備

A 順調に進捗している      B ほぼ進捗している      C あまり進捗していない

3. 日本漢学分野の研究者養成

A 順調に進捗している      B ほぼ進捗している      C あまり進捗していない

【特記事項】特に評価できる点、改善すべき点等をご記入ください。

1. は、国内外の関係機関とのネットワークを構築し、ワークショップやシンポジウム、講演会を次々と企画、実施している点、高く評価できる。特に、国際シンポジウムが積極的に開催されており、「漢学者記念館会議」の開催も意義深い試みと評価できる。2. は、近代日本漢学に関する資料やコレクションを収集するのみではなく、それらの整理、研究を意欲的に推進し、資料展示や図録刊行という形でのアウトプットがなされている点、評価できる。『近代日本漢学資料叢書』等の刊行物も学界に大きく貢献するものである。3. は、研究助手の学位取得があり、また海外でのセミナーも人材育成のための重要な取り組みであると評価できる。今後も、諸々の活動や成果物の刊行等について、さまざまな媒体を通じて積極的な発信を行い、充実した活動に対する認知度がさらに高まるように工夫されたい。

評価日： 2018 年 5 月 2 日

評価者：所属・職位 早稲田大学文学部文学研究科 教授

氏名 河野 貴美子 勲